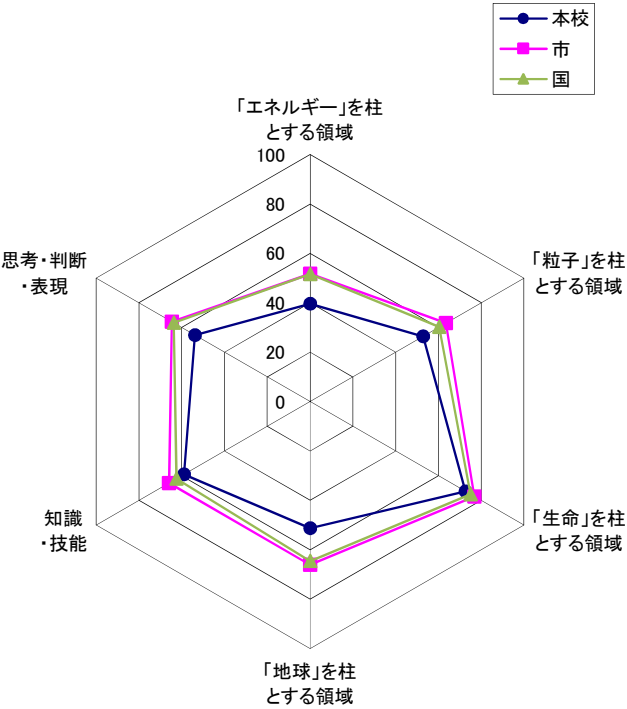


宇都宮市立宝木小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	39.6	51.7	51.6
	「粒子」を柱とする領域	52.8	63.5	60.4
	「生命」を柱とする領域	72.6	76.8	75.0
	「地球」を柱とする領域	51.3	66.1	64.6
観点	知識・技能	58.9	65.9	62.5
	思考・判断・表現	53.8	64.6	63.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	○選択問題において無回答児童はおらず、全国平均と比べて正答率が大きく落ち込んでいるわけではない。 ●全国平均に比べ、本分野の正答率が12ポイント低い。特に記述式で回答する問題の正答率が他の問題よりも低く、無回答の児童も15.5%程度いる。	・実験の結果をまとめたり、その結果から分析して理解したり、自分の考えをもったりできるような機会を設ける。 ・基本的な知識の定着を目指し、実感を伴った理解ができるよう実験や考察の時間の進め方を工夫する。
「粒子」を柱とする領域	○体積を適切にはかり取る器具の名称は理解できている。全国平均と同じ正答率であった。 ●記述での回答が全国平均に比べ14.1ポイント低い。無回答児童も10パーセント程度いる。正答になるための2つの条件を満たすことができず誤回答になってしまう児童24.3%いる。	・実験をする際、用具の正しい使い方を確実に理解させる。 ・実験の結果をもとに自分の考えをまとめたり、その中でも問題解決に必要な情報はどの結果であるのかを情報を整理し、選択できたりする力を育成する。
「生命」を柱とする領域	○この分野は、正答率が72.6%と全体的に高く、正答率が72.6%。記述式での回答も56.3%の児童が回答できている。 ●記述式の回答を見ると、すべての条件が記述されておらず、点数につながらなかった児童が14.6%と全国と比べて3ポイント高い。	・自分の観察記録をする際、自分の言葉でまとめたり、改善できることはないかと考えたり、自分の考えを記述する技能を身に付けられるよう書く視点を明確に指導していく。 ・児童の興味・関心が高い内容については、児童自身も持っている知識や気付きを友達と共有する機会を設けることで、学びを広げ、多くの児童の関心を高め思考に結び付ける手立てとしていく。
「地球」を柱とする領域	○天気と気温の変化を基に問題に対するまとめを選ぶ問題の正答率は、全国平均を下回るものの、77.7%の児童が正答することができた。 ●この分野は、全国平均と比べて大きく正答率が下回った。13.3ポイントの差が見られた。他の分野に比べて思考・判断・表現の問題の割合が多かった。	・学習した知識を生活の中と結び付けられるよう、児童が思いつような実体験を例に出したり例えたりしながら分かりやすい指導をしていく。 ・実験をする際には、予想を立て、見通しをもたせ、実験の筋道を構想できるよう確実な時間確保と実験の意図の確認・共有を行っていく。